

六 為替手形、約束手形及び小切手に関する法律統一國際會議

1 「為替手形約束手形及小切手ニ関スル法律統一ノ

國際會議報告書」

昭和五年六月

為替手形約束手形及小切手ニ関スル法律統一ノ
國際會議報告書^{編註}

報告書

瑞西国「ジュネーヴ」ニ於テ開催ノ為替手形約束手形及小切手ニ関スル法律統一ノ国際會議ニ帝国代表委員トシテ参列ヲ命セラレ随員判事小堀保大使館三等書記官安東義良ト共ニ同會議ニ列席シ参列ノ各員委員ト会同商議ヲ遂ケタル顛末別紙ノ通り報告ス

昭和五年六月十八日

帝国代表委員

特命全權公使 大野 守 衛

同

判 事 島 田 鐵 吉

外務大臣 男爵 幣原喜重郎 殿

司法大臣 子爵 渡邊千冬 殿

大蔵大臣 井上準之助 殿

商工大臣 俵 孫 一 殿

目次

総論

- 第一章 会議ノ沿革
- 第二章 会議ノ構成
- 第三章 会議経過ノ大要
- 第四章 帝国政府ノ訓令ニ対スル措置

各論

- 第一章 手形条約附属書第一手形統一法
- 第二章 手形条約附属書第二留保規定
- 第三章 為替手形及約束手形ニ関スル法律ノ抵触ヲ規律スル条約
- 第四章 為替手形及約束手形ニ関スル印紙法条約

附属書類

- 第一 訓令
- 第二 条約^(省略)
 - 一 為替手形及約束手形統一法
 - 二 為替手形及約束手形ニ関スル法律抵触ヲ規律スル条約
 - 三 為替手形及約束手形ニ関スル印紙法条約

総論

第一章 会議ノ沿革

手形法ノ國際的統一運動ハ十九世紀後半ニ始マリ其ノ主ナルモノトシテ國際私法学会及國際法協会ノ事業白耳義国主催ノ千八百八十五年及同八十八年ノ「アンヴェルス」及「ブラッセル」商法會議、和蘭国政府主催ノ千九百十年及同十二年ノ海牙ニ於ケル手形法統一會議等ヲ挙クルコトヲ得ヘシ

右千九百十二年ノ海牙會議ニ於テハ為替手形及約束手形ノ統一規則及之カ施行ヲ約スル条約並ニ小切手規則ニ関スル決議成立シタルニ拘ラス手形条約ハ之ヲ批准シタル国ナクシテ世界大戰勃發シ一時右事業ヲ中止スルノ止ム無キニ至リタルカ千九百二十年「ブラッセル」ニ於ケル財政會議ノ發意ニ遵ヒ國際聯盟經濟委員會ニ於テ本問題ヲ研究スルコト、為リ右委員會ハ四名ヨリ成ル専門家委員會ヲ指名シテ其ノ報告ヲ徴シ千九百二十三年之ヲ聯盟各國ニ送付シ其ノ意見ヲ求メタリ

經濟委員會ハ右ニ対スル各國ノ回答及千九百二十五年六月「ブラッセル」ニ於ケル國際商業會議所會議ノ決議ニ徴シテ各國ニ統一ヲ促進セムトスル氣運アルヲ看取シ進ムテ本問題ノ研究ニ當リ千九百二十六年十二月専門家ヲ会シ手形法統一事業ノ難点ニシテ國際條約ニ依リ解決シ得ラル、モノヲ研究セシメタルカ他方國際商業會議所ハ千九百二十七年ノ「ストツクホルム」會議ニ於テ其ノ特別委員會ノ作成セル手形規則及小切手規則案ヲ採択シ之ヲ基礎トシテ國際聯盟ニ於テ第三回國際會議ヲ召集セムコトヲ希望スルノ決議ヲ為シタリ

經濟委員會ハ氣運ノ至レルヲ見、千九百二十七年十一月ヨリ翌二十八年四月迄数次専門家委員ヲ会シテ會議ノ基礎タルヘキ統一案ヲ練ラシメ同年六月該専門家案ヲ採用シタル上理事会ノ決定ニ基キ之ヲ聯盟事務總長ヨリ各國ニ送付シ其ノ意見ヲ求メタルカ理事会ハ同年六月各國政府ノ回答到達シ又聯盟事務局ノ準備整フヲ待チ千九百三十年二月「ジュネーヴ」ニ

於テ國際會議ヲ開催スヘキヲ決定シタリ然ルニ各国政府ノ回答ハ本問題ノ複雑多端ナル為遅延シ事務局ニ於テ準備ヲ整フルノ暇無カリシ為五月十三日寿府ニ於テ開催セラル、コトニ変更セラレ聯盟事務総長ヨリ各国ニ参加ヲ招請シ多数ノ賛同ヲ得タリ

第二章 會議ノ構成

為替手形及約束手形法規並ニ小切手法規統一ノ國際會議ハ聯盟主催ノ下ニ五月十三日ヨリ六月七日迄寿府聯盟事務局ニ於テ開催セラレ独、奥、白、英、「ブラジル」、「コロムビア」、丁、「ダンチツヒ」自由市、「エクアドル」、西、芬、仏、希、洪、伊、日、「リトアニア」、「ルクサンブルグ」、諾威、和、秘露、「ポーランド」、羅馬尼、暹羅、葡、瑞典、瑞西、「チエツク」、土、「ヴェネゼラ」、及「ユーゴスラビヤ」ノ三十一ヶ国委員ノ外「オブザーヴァー」トシテ米國委員諮問委員トシテ聯盟經濟委員會、國際商業會議所、羅馬私法統一國際協會ノ各代表之ニ参加シタリ

本會議ノ議長ハ理事会ヨリ和蘭人「ジェー、リムブルグ」博士ヲ任命シ會議事務ハ聯盟事務局經濟部員「シュメツツ」氏之ヲ主宰シ五月十三日開會ニ際シテ議長ハ資格審査委員トシテ「デユスマン」氏（「リトアニア」委員）大野委員及「レストレボ」氏（「コロムビア」委員）ヲ指名シ起草委員トシテ「ペルスルー」（仏）「ジャニニー」（伊）「カゾースキー」（独）「スルコウスキー」（波）「ヴィシエル」（瑞）ノ五氏ヲ指名シ會議賛同ヲ得其ノ後手形法ノ牴觸ヲ規律スル條約案討議ノ際「ディエナ」氏（伊）起草委員ニ推挙セラレタリ

第三章 會議ノ經過大要

討議ノ劈頭議長ハ討議順序ニ付為替手形及約束手形ニ關スル規則ノ各條ヲ審議シタル後ニ條約案ヲ討議シ小切手モ同様ノ順序ニ依ルヘキ旨ヲ提議シ異議ナカリシカ手形規則及小切手規則採択ノ様式ニ關シテ専門家案ノ意見ノ如ク単ニ規則ノ内容ヲ採用シタル法律案ヲ立法機關ニ提出スルコトヲ締約国ニテ約スルニ止マルカ又ハ海牙「システム」ノ如ク統一規則ハ原文又ハ其ノ國語ニテ国内ニ施行スヘキヲ約スルト同時ニ特殊ノ留保條項ヲモ認ムルヲ可トスヘキカニ付討論アリ多数ハ専門家案ハ手形法統一ノ実効ヲ薄カラシムル虞アリト為シテ反対シ大海牙「システム」ニ依ルコトニ決定シタリ

続キテ為替手形及約束手形ノ統一規則各條ノ審議ニ入り連日急速度ヲ以テ討議セラレタルカ議論頗ル多岐ニ亘リ各国ノ新提案続出し漸ク五月二十七日右規則ノ第一讀會ヲ終リ翌二十八日ヨリ條約案ノ留保條項及手形法ノ牴觸ヲ規律スル條約案ニ移リ手形ニ關スル印紙法ノ條項ハ後回シトシテ審議シタル後手形規則ノ第二讀會ニ移リタルニ其ノ内容ニ亘リテモ又々異論ヲ生シ條文ノ變更ヲ蒙リタルモノ尠ナカラス六月四日漸ク最後ノ決定ヲ見タリ條約ノ形式、署名、批准、廢棄條項等ニ關スル案ハ五月二十九日夜事務局側ヨリ交付シ来リ三十日討議セラレタルカ第一讀會ニ於テ手形統一規則ハ手形統一法ト改称スルコトシ締約国ニ於テ統一法ヲ原文若クハ其ノ國語ニテ之ヲ施行スルコトヲ約シ留保條項ハ批准若クハ加入ノ際之ヲ選定シ得ルモノト批准若クハ加入後之ヲ選定シ得ルモノト緊急ノ際通告ヲ發シテ直ニ適用（但受信主義ヲトル）シ得ルモノトノ三種ニ分ツコト、シ又條約廢棄條項ニ關シテハ海牙條約ニ於テ三ヶ年間ハ廢棄ヲ為シ得サルコト、シ議會ノ立法權ヲ拘束シ居ル為批難アリタルニ顧ミ批准寄託後二年間之ヲ廢棄シ得サルモ締約国ニ於テ緊急ト認ムル場合ニハ聯盟事務局ニ通告後八十日ニシテ廢棄シ得ルモノト為シタリ、署名期間ハ一ヶ月（起草委員ニ於テ二ヶ月トセリ）批准期間ハ二ヶ年ト定マレルカ六月四日第二讀會ニ於テ日本ノ要求ヲ入レ署名期間ハ三ヶ月（本年九月六日迄）ニ變更セラレタリ印紙法ニ關スル條項ト法律ノ牴觸ヲ規律スル條項トハ英國及日本ノ要求通り各別ノ條約トナリ署名、批准條項等ハ手形條約ト同様トナレリ

本會議ハ結局其ノ成果トシテ

(一) 為替手形、約束手形ニ關スル統一法條約（統一法ヲ附屬書一トシ留保ノ列挙ヲ附屬書二トシ締約国ニ於テ留保ノ点ヲ除キ統一法ヲ其ノ儘原文又ハ其ノ國語ニテ国内ニ施行スルヲ約ス）及同「プロトコール」（批准期間經過後ノ措置及條約実

施後ノ新法律ノ通告ニ関ス

(二) 為替手形約束手形ニ関スル法律ノ抵触ヲ規律スル条約及同「プロトコール」(手形条約「プロトコール」ト同様)
(三) 為替手形約束手形ニ付テノ印紙法ニ関スル条約(為替手形及約束手形ニ関スル約束ノ効力ヲ印紙法ノ遵守ニ依リ左右セサルコトヲ約ス)及同「プロトコール」(前同様但シ英国ニ対スル留保事項ヲモ列挙ス)

ノ三条約ノ外条約実施ニ関スル會議ノ諸希望(イ)統一法ノ条文ヲ採用スル際同一國語ヲ有スル國ハ公用翻譯ヲ協定スルコト(ロ)法定ノ休日若クハ其ノ他ノ支払要求不能ノ日ノ表ヲ通知スルコト(ハ)条約実施後之二國スル最重要ナル判決ヲ通知スルコト(ニ)羅馬私法統一國際協會ハ手形債務ノ保證及保險ヲ為替手形全体及保證ト併セテ研究スヘキコト(ホ)小切手法ニ関スル會議ヲ成ルヘク千九百三十一年一月開ク為議長ハ理事会ノ許可ヲ得ルコト及各代表ハ同會議ノ參考資料トシテ本年十月十五日迄ニ小切手ニ関スル列挙ノ諸点(省略)ヲ研究シ之ニ関スル提案意見ヲ聯盟事務總長ニ通告スルコト(ヘ)事務總長ハ右通告ヲ分類シテ書類ヲ作成シ議長ハ會議出席ノ各國ニ之ヲ送付方然ルヘク指図スルコト(ト)理事会ハ右実行ニ関シテ事務總長ニ許可ヲ与フルコト)

ヲ列挙シテ最終議定書ヲ作成シタリ

本會議議事ハ小切手ニ関スル分ヲ延期シテ六月六日終了同月七日署名ヲ為シメタル後閉會式ヲ舉行セルカ同日三条約及最終議定書ニ署名セル國ハ独、奥、白、「ブラジル」、「コロムビア」、「丁」、「ダンチツヒ」自由市、「エクアドル」、西、芬、仏、伊、「ルクサンプルグ」、諾威、和、秘露、「ポーランド」、葡、瑞典、瑞西、「チエック」、及土ノ二十二ヶ國ニシテ英國委員ハ印紙法ニ関スル條約及最終議定書ニ署名シ日本等ハ最終議定書ニ署名スルニ止メタリ

本會議ヲ通觀スルニ今回ノ統一法會議ハ討議ノ基礎トナレル專門家案カ主トシテ大陸法系ノ統一ヲ目的トシ可及的ニ「アングロサクソン」法系トノ接近ヲ計ラムトシ居レルヲ以テ自然大陸法諸國中仏獨兩法系代表者論議ヲ中心トシ大戰後新興諸國中海牙規則ノ内容ヲ採用シタル國ノ委員等熱心ニ討議ニ加ハリタルカ英國委員ハ印紙法ニ関スル條約ノ外其ノ他ノ条

約ニ加ハリ得サルヲ声明シ側面ヨリ會議ヲ援助スルノ態度ニ出テ米國委員ハ單ナル「オブザーヴァー」トシテ殆ト討議ニ加ハラス帝國代表ハ其ノ多数ノ提案ヲ以テ終始討議ニ加ハリ幾多ノ提案ヲ容レシムルト共ニ規則ノ形式上ノ欠点ヲ補足セシメタル処尠ナカラス本會議ノ議事ハ其ノ内容ノ複雑ナルニ加ヘ新提案統出シ席上直チニ附議セラル、モノアリ本委員トシテハ一々請訓ノ暇モ無ク機宜ノ処置ヲ執リタリ尚聯盟ノ會議公用語タル仏英語ノ如キモ多数委員カ仏語ナル為會議ノ中頃ヨリ其ノ英訳ヲ省クニ至リ又起草委員會ハ同時ニ報告者トシテ最モ活動シタルカ其ノ專斷ニヨリ条文ヲ改メタル箇所無キニ非ス

今回ノ會議カ手形法ノ統一ヲ目的トシタルニ拘ラス會議ニ於テ海牙條約ト同様各國ノ求メニヨリ多数ノ留保ヲ認メサルヲ得サルニ至リタルハ過渡時代トシテ止ムヲ得サルヘキモ本條約實施ノ曉ニハ國際商業上ニ貢獻スル処尠ナカラサルヘシト思料セラル

第四章 帝國政府ノ訓令ニ対スル措置

帝國政府ノ訓令中乙ハ會議開會ニ先チ「オブザーヴェーション」若クハ提案ノ形ニ仏訳シテ事務局ヲ通シ各國委員ニ配布セシメ(document C.I.L.C. Addendum V 参照)逐条討議ノ際之ニ論及シ訓令貫徹ニ努力シタル次第ナルカ

(一) 訓令甲手形規則及小切手規則採択ノ様式ニ付テハ會議ノ当初大勢海牙「システム」ニ傾キタル際帝國委員ハ其ノ様式ニ付テハ條約タルト勸告タルト決議タルト何レニセヨ可ナリト思惟スルモ條約タル場合ニハ批准條項ヲ必要トスル旨声明シ置キタル処會議ノ終期(五月二十九日)其ノ條約案トシテ事務局ヨリ送付シ来レルモノニハ批准期間ヲ二十ヶ月ト為シアリ不取敢請訓シタルカ翌日(五月三十日)ノ第一讀會ニ於テ訓令ヲ待ツ暇無ク又長期若クハ無期限ヲ主張スルモ大勢ニ反シ到底容レラレサルヲ看取シタルカ故ニ少クトモ二ヶ年ニスルコトヲ述ヘタルニ滿場二ヶ年ヲ可トナシ之ニ決定シタリ然ルニ六月二日回訓接到シタルヲ以テ六月四日ノ第二讀會ニ於テ當方ノ事情ヲ闡明シ海牙案同様「成ル可ク速ニ」

批准スルコトトスヘク會議ニ諮リ極力之ヲ主張シタルモ之ニ賛成スルモノ無ク又日本ノ爲例外ヲ認ムコトヲ諮リタルモ容レラレス議長、伊太利、「ブラジル」等ノ委員ハ特ニ日本ニ満足ヲ与フル爲三ヶ年トスルコトヲ提議シ一応會議ノ同意ヲ得タルモ帝國委員ニ於テ訓令ニ尠クトモ五ヶ年トアリタルト特ニ日本ノ爲ニ三年トセラレタルヲ受諾シテ德義的拘束ヲ受クルヲ虞レ之ニ満足ヲ表示シ得サリシ結果大多数元来ノ希望通り二ヶ年ノ復活ヲ見タリ條約議定書中ニハ(イ)一九三二年七月一日迄ニ批准寄託ヲ爲シ得サルトキハ右期日後十五日間ニ聯盟ニ其ノ批准狀況ヲ通知スルコトヲ要シ(ロ)同年九月一日條約効力發生条件具備セサルトキハ聯盟ハ署名国及加入国ノ會議ヲ招集シテ之ニ対応スル適當ノ措置ヲ審議スヘキヲ定メタリ

右批准期間ニ関シ事務局員「シュメツツ」氏ハ帝國委員ニ内話シ日本ニ於テ右期間迄ニ批准ヲ爲シ得サレハ其ノ事情ヲ具シテ締約国ニ其ノ後ノ批准ヲ批准ト見做スヘキ旨了解ヲ求ムレハ之ニ反対スルモノ無カルヘク結局批准期間ハ左程重要ナル問題ニ非スト弁明シタリ

尚本條約ノ發効条件トシテ七ヶ国ノ批准若クハ加入ヲ要シ其ノ中三ヶ国ハ常任理事国タルヲ必要トセルハ日本ノ去就ヲ重カラシムルモノナリ

(二)訓令乙ノ一爲替手形約束手形及小切手ニ付總テ署名ヲ要スル場合我國内手形ニ付記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得ヘキ旨ノ留保ヲ爲スコトニ関シテハ手形規則第一条審議ノ際右ノ趣旨ヲ我方ヨリ声明シタルニ會議ハ署名ノ意義ハ最広義ニ解シ其ノ国ノ慣習ニ依リ紙上又ハ證券ノ上ニ之ヲ爲セル人ヲ判然タラシムル爲ニ用ヒラル、何等カノ記号ヲ指スモノナレハ日本ノ記名捺印モ其ノ一ナリト認メ特ニ二条文中ニ之カ規定ヲ設クルニ及ハスト爲シタルヲ以テ會議ノ「ラポート」中ニ之ヲ明記セシムルコト、シタリ(第一条ハ爲替手形ニ關スルヲ以テ第七十五條(原案七十四條)約束手形ニ付テモ注意ヲ喚起シ「ラポート」中ニ明記セシムルコトヲ得タリ)

(三)手形條約第一条「統一法ヲ原文又ハ其ノ國語ニテ施行ス」トアリタルニ対シ訓令ヲ仰ク暇無ク機宜ノ処置トシテ第一条

第一項ニ「又ハ統一法ノ全内容ヲ採用スルコトヲ約ス」ナル句ヲ附加セシメテ我國ノ如キ法律用語技術体系ヲ異ニスル國カ統一法ヲ採用スルコトヲ容易ニシ専門家案ノ「モデルシステム」ニ近接セシムコトヲ主張シタルモ會議当初ノ方針ト相容レサル爲容ル、処トナラサリシヲ以テ特ニ翻譯ニハ柔軟性ヲ認メ其ノ國ノ法律技術上必要ナル意識ヲ爲シ得ルコト、シ之ヲ「ラポート」中ニ止メシメタリ

(四)其ノ他我提案ニシテ可決セラレタルモノ(訓令乙ノ十一、十三後段、十七、十九ノ一部、丙ノ一)我主張カ解釋上是認セラレタルモノ(訓令乙ノ八、九、十四、二十)我解釋ノ是認セラレタルモノ(訓令乙ノ三、四)提案ノ主張カ留保條項ニ依リ達セラレタルモノ(訓令乙ノ二十二)間接ニ主張貫徹ニ近キ結果ヲ得タルモノ(訓令乙ノ十八、丙ノ二)アルモ大勢順應差支ヘ無シトセラレタル訓令乙ノ二、五、十二、十三前段、十五、二十一ト乙ノ十九ノ他ノ一部及丙ノ二ハ何レモ否決セラレ又ハ撤回シタリ又乙ノ七ハ解釋上自ラ明ニシテ特ニ規定ヲ設クルノ要ナシトシテ否決セラレタリ乙ノ二十三ハ手形規則第三十一条甲カ削除セラレタル爲主張スルノ要ナキニ至レリ

各 論

第一章 手形條約附屬書第一、手形統一法

原案タル統一規則案各本条ニ付テハ各国ヨリハ幾多ノ提案アリ會議ニ於テ之ヲ可決シタルモノアリ否決シタルモノアリ又中途撤回シタルモノアリ之等ノ詳細ノ点ハ議事録又ハ「ラポート」ニ譲リ茲ニハ其ノ結末ヲ明ニスルコト、シタリ而シテ本章ニ於テ第 条ト謂フハ原案ノ条文ヲ指シ新第 条ト謂フハ條約附屬書第一手形統一法ノ条文ヲ指スモノトス又會議ニ於テ統一規則ヲ統一法ト改メタルハ總論ニ於テ述ヘタルトコロノ如クニシテ統一法ハ爲替手形ニ關スル規定ヲ第一編トシ約束手形ニ關スル規定ヲ第二編ト爲シタリ

第一条 (新第一条)

原案通可決

訓令乙一ニ付テノ帝国代表ノ提案並ニ其ノ結果ハ既ニ総論ニ於テ述ヘタルトコロノ如シ

第二条 (新第二条)

原案通可決

第三条 (新第三条)

本条第三項ニ付テハ訓令乙二ノ趣旨ニ基キ本条ノ如キ事項ハ単ナル對価關係ニ属スルコトノ故ニ統一法中ニ規定スルコトハ不適当ナル旨主張シ之カ削除ヲ提案シタルトコロ會議ノ賛同ヲ得ルコト能ハス否決セラレタリ

第四条 (新第四条)

原案括弧内ノ他所払手形(Lettre de change domiciliée)ナル文字ハ削除セラレタリ蓋シ各国ノ法制ニ於テ其ノ意義必スシモ同一ナラス為ニ論争ヲ惹起シ結局本案ニ在リテハ第三者方ニ於テ支払ハルヘキ手形ヲ指スモノナルコト明トナレルモ統一法上ノ用語トシテハ疑義ヲ生スル虞アリテ不適当ナリト為シタルニ因ル

訓令乙三ニ付テハ本条ニハ第三者ノ住所ニ於テ支払ハルヘキモノト為スコトヲ得ト規定シアルモ振出人ハ支払ノ場所又ハ支払担当者ヲ記載スルヲ得ル趣旨ナルコト明トナレルヲ以テ第二読会ニ於テ我国カ本条ヲ意識スルニ当リ振出人ハ支払担当者ヲ記載スルコトヲ得ル旨ヲ明規シ得ヘキコトノ承認ヲ得テ議事録ニ其ノ旨ヲ明記セシメタリ

第五条 (新第五条)

原案通可決

第六条 (新第六条)

原案通可決

第七条 (新第七条)

原案ハ無能力者ノ署名ハ他ノ手形署名者ノ債務ニ対シ何等ノ影響ナキ旨ヲ規定シ以テ手形行為獨立ノ原則ヲ單ニ無能力者ノ行為ニ関シテノミ之ヲ明ニシタルニ過キサリシトコロ「スエーデン」外三ヶ国ノ代表委員ヨリノ提案ニ基キ原案第六十八条ノ偽造署名ノ場合ニ於ケル他ノ署名ノ効力ニ関スル規定ヲ本条ニ合シテ一条文ト為シ且詐偽強迫其ノ他ノ事由ニ因ル署名ノ場合等ヲモ之ニ網羅シテ手形行為獨立ノ原則ヲ一般的ニ規定スルニ至リタルモノナリ即チ条文ハ左ノ如ク修正セラレタリ

「為替手形カ手形債務ヲ負担スル能力ヲ有セサル者ノ署名、偽造ノ署名、其ノ他ノ事由ニ因リテ為替手形ニ署名ヲ為シ若ハ其ノ者ノ名ニ於テ為サレタル者ニ債務ヲ負ハシメ得サル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之カ為其ノ効力ヲ減スルコトナカルヘシ」

第八条 (新第八条)

本条前段ト後段トノ間ニ「其ノ者カ手形金ノ支払ヲ為シタル場合ニ於テハ本人ノ有スヘカリシ權利ヲ取得ス」トノ規定ヲ設ケタリ蓋シ本条前段ニ於テ義務ノ方面ニ付規定ヲ為シテ代理人カ手形上ノ責任ヲ負フヘキモノト為シタル以上權利ノ方面ニ付テモ本人ト同様ノ地位ニ於テ手形上ノ權利ヲ有セシムルモノト為スヲ至当ト為シタルニ因ル

第九条 (新第九条)

原案通可決

新条 (新第十条)

第九条ノ次ニ白地手形ニ関スル新条ヲ設ケタリ本条文ヲ統一法中ニ挿入スルノ可否ニ付テハ相當議論アリ或ハ白地手形ハ国ニ依リテ嘗テハ無効説アリシモ學說判例ニ於テ漸次有力トナリ又之ニ付法律ノ規定ヲ設ケタルモノアリ英、米、澳ノ立法ノ如キ波蘭、「ユーゴスラヴ」ニ於ケル之ニ類似セル規定ノ如キ又千九百二十三年ノ独逸ノ立法ノ如キ是ナリ実

際生活上ノ必要ニ応シ本規定ヲ統一法ニ認ムルコト可ナルヘシト説キ或ハ白地手形ノ問題ハ全ク普通法ニ於テ解決スヘキモノタリ即白地カ何時迄モ補充セラレサリシナラハ其ハ手形トシテノ存在ヲ有スルモノニ非ス白地ノ補充カ正当ニ或ハ不正当ニ行ハレタル場合ニ於テ法律上ノ効果ヲ定ムルコトハ手形法ノ領域外ニ屬スルノミナラス斯ル制度ヲ法律上明ニスルニ於テハ補充濫用ノ弊害ニ堪ヘサルモノアルヘシ又白地手形ニ付テノ討議ハ本會議ノ議題外ニ在ルモノナルヲ以テ宜シク千九百十二年海牙會議ノ例ニ倣ヒ本會議ニ於テハ討議セサルヲ賢明ノ策トスト力説シ賛否両論アリタリ議長ハ其ノ採否ヲ指名投票ニ依リテ決シタルトコロ採用説十五、反対説九票トナリ白地手形ニ関スル規定ヲ第十条トシテ統一法中ニ規定スルコトニ決シタリ帝國代表ハ白地手形カ我國ノ學說判例ニ於テ是認スルトコロナルコトニ稽ヘ採用説ニ賛成シタリ但シ附屬書第二ノ留保條項中ニハ各國ハ本條ヲ採用セサルコトヲ得ヘキ旨ノ規定ヲ設ケタリ新條ノ全文左ノ如シ

「振出ノ際不完全ナル為替手形カ約束ニ違反シテ補充セラレタル場合ニ於テモ此ノ約束ノ違反ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ス但シ所持人カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ手形ヲ取得シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス」

第十条（新第十一条）

原案通可決

第十一条（新第十二条）

本条第一、二項ハ原案通可決

第三項ハ伊國ノ提案ニ基キ「所持人ニ」ノ裏書ハ白地裏書トシテノ効力ヲ有スト修正セラレタリ是レ手形記載ノ文字ヲ出来得ヘキ限有効ナラシメ手形ノ流通ヲ円滑ニシ又本項ノ修正ハ英國法トノ統一ヲ可能ナラシムルニ至ルヘキ実益存セシヲ以テナリ

第十二条（新第十三条）

第一項ニ於ケル「為替手形ノ裏面、補箋ノ裏面」ノ「ノ裏面」ナル文字ヲ削除シタリ蓋裏書ハ手形ノ裏面ニ記載スルコトヲ普通トスト雖之レ裏書ノ本質ナリト為スヘキニ非サルノミナラス裏面ニ記載スルコトヲ要ストセハ為ニ裏書ノ無効ヲ惹起スル場合生スヘシ手形行為ノ無効原因ヲ出来得ル限少ナカラシムルカ為ニ裏書ハ原則トシテ手形ノ表裏ノ何レヲ問ハス之ヲ為スコトヲ得ヘキモノト為シタルナリ

然レトモ白地裏書ハ単ニ署名ノミヲ以テ為スコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ斯ル裏書ヲ手形ノ表面ニ之ヲ為ストキハ他ノ手形行為例ヘハ引受保證等ノ記載ト混同スルノ虞アルヘシ會議ニ於テハ署名ノミヲ以テ為ス裏書ニ付テハ手形ノ裏面ニ為スヘキモノトシ第二項ヲ左ノ如ク修正シタリ

「裏書ハ被裏書人ヲ指定セス又ハ単ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ為スコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ裏書カ有効ナルカ為ニハ手形ノ裏面又ハ補箋ニ記載スルコトヲ要ス」

第十三条（新第十四条）

原案通可決

第十五条（新第十六条）

原案通可決

第十六条（新第十七条）

本文ハ原案通可決セラレタルモ但書ノ「惡意」ナル文句ハ広義ニ解釈セラレ所持人カ単ニ振出人又ハ前所持人ノ人的關係ニ基ク抗弁ヲ認識シタルニ過キサカ如キ場合ニ於テモ尚且ツ此ノ抗弁ヲ以テ對抗セラルルニ至リ適當ニ非サルヲ以テ修正ヲ加フヘシトノ意見アリ討議ノ結果「惡意ヲ以テ」ヲ「債務者ニ損害ヲ生セシムル意思ヲ以テ」ト修正シ債務者ノ抗弁ノ範圍ヲ明確ナラシメタリ

第十七条（新第十八条）

第一、二項ハ原案通可決

第三項ニ付テハ末尾ノ「消滅スルモノニ非ス」ヲ「終了セス」ト訂正シタリ是単ニ文字ノ修正ニ止マル

第十八条(新第十九条)

第一項ニ付テハ其ノ末段「質権ヲ有スル債権者カ債務ノ満期トナリタルトキ質権ヲ行使スル權利ニ影響ヲ及ホスコトナカルヘシ」トノ文句ハ之ヲ削除スルニ決シタリ蓋原案作成者タル法律専門家委員会ニ於テハ千九百十二年海牙規則案ニ右文句ヲ追加シテ為替手形ヲ質物トシテ取得シタル債権者カ質権ヲ有スル債権者ト同様質権ヲ実行シ得ヘキコトヲ明ニセントシタルモノナルトコロ會議ニ於テハ右文句ノ可否ニ付問題トナリ討議ノ結果斯ル權利ノ実行問題ハ普通法ノ領域ニ於テ解決スヘキモノニシテ特別法タル手形法ニ於テ之ヲ規定スルハ適當ニ非スト為シタルニ因ル

第二項ニ付テハ原案第十六条但書ノ修正アリタル結果之ト同様ノ趣旨ニ於テ「惡意ヲ以テ」ナル文句ヲ「債務者ニ損害ヲ生セシムル意思ヲ以テ」ト修正シタリ

第十九条(新第二十条)

原案可決セラレテ第一項トナレリ尚和蘭代表ノ提案ニ基キ討議シタル結果本条第二項トシテ左ノ推定規定ヲ設クルニ至レリ

「反對ノ證據ナキ限り日附ノ記載ナキ裏書ハ拒絕證書作成期間經過前ニ作成セラレタルモノト推定ス」

訓令乙四ニ基キ本条ノ支払拒絕證書作成期間經過後ノ裏書ハ通常債權讓渡ノ効力ノミヲ有スル旨ノ規定ハ被裏書人ハ裏書人ノ有スル權利ノミヲ取得スト謂フト同一趣旨ナリヤヲ會議ニ諮リ其ノ趣旨ナルコトヲ明ニスルヲ得タリ

第二十條(新第二十一條)

原案通可決

第二十一條(新第二十二條)

第一項ハ原案通可決

第二項ハ「他所払手形」(Lettre de change domiciliée)ナル文字ニ代フルニ「第三者方ニテ支払ハルヘキ手形」(Lettre de change payable chez un tiers)及「支払人ノ住所地ニ非サル地ニ於テ支払ハルヘキ手形」ナル文字ヲ以テスルコトニ決シタリ是レ「他所払手形」ナル文字ハ国ニ依リテ同一ノ意義ニ用ヒラレス統一法ノ用語トシテハ不適當ナルコトハ既ニ第四条ノ討議ノ際明ニセラレタルトコロニシテ又独逸代表カ本項但書ノ場合トシテ支払人ノ住所地ニ非サル地ニ於テ支払ハルヘキ手形ヲモ加ヘテ除外例ノ場合ヲ多カラシムヘシトノ提案ヲ為シ右ノ如ク修正セラレタルモノトス

帝国代表ハ訓令乙五ニ依リ引受要求ノ絶對的禁止ハ總テノ手形ニ付之ヲ許サハルモノト為スヘキ旨ヲ提議シタルトコロ會議ニ於テハ先ツ独逸案ニ付討議シ本項ハ前記ノ修正ヲ加フルニ止メラレ又諸国ニ於テハ既ニ斯ル文言ノ実益アルコトヲ認メラレ居レルニ鑑ミ大勢ニ順應シテ提案ヲ撤回シタリ

訓令乙六前段及七ニ付テハ他所払ナル文字カ前記ノ如ク修正セラレタルヲ以テ特ニ之カ釈明ヲ求メサリキ

第二十二條(新第二十三條)

第一項ノ「六月内」ヲ「一年ノ期間内」ト修正シタル外原案通可決

第二十三條(新第二十四條)

本条ハ仏国代表ノ「オブサーベーション」ニ依リテ第一項ト第二項トノ順序ヲ變更シタリ蓋原案ノ儘ナルトキハ第二項ハ第一項ニ依リテ所持人カ引受ノ為呈示シタル手形ヲ支払人ニ預ケ置カサル場合ニノミ適用セラレ第二項ノ考慮期間ハ手形ヲ支払人ノ手ニ預ケ置キタル場合ニハ其ノ適用ナキカ如ク解釈セラル、虞アリ斯クテハ支払人ニ考慮期間ヲ与ヘタル法ノ趣旨ニ反スルコト、ナルヘキヲ以テ項ノ順序ヲ變更シ第二項ヲ新第一項トシテ一般的ニ支払人ニ考慮期間ヲ与フル趣旨ヲ明ニシ第一項ヲ新第二項トシテ規定スルヲ可トシタルニ因ルモノトス

第二十四條(新第二十五條)

原案通可決

第二十五条（新第二十六条）

原案通可決

第二十六条（新第二十七条）

第一項前段「支払担当者ヲ定メサリシトキハ引受ニ於テ手形ノ支払ヲ為スヘキ者ヲ定ムルコトヲ要ス」ナル文句ヲ「支払ヲ自分方ニテ為スヘキ第三者(un tiers chez qui le paiement doit être effectué)ヲ指定セサリシトキハ支払人ハ引受ヲ為スニ当リ之ヲ指定スルコトヲ得」ト修正シタリ是單ニ字句ノ修正ヲ為シタルニ過キス蓋第四条及第二十一条ノ修正ニ伴ヒ本項ノ支払担当者(Domiciliataire)ナル用語モ亦之カ使用ヲ避クルヲ適當トシタルニ因ル

第二項ハ原案通可決

訓令乙八及九ノ趣旨ニ基キ第一項ニ付引受人カ支払地ニ於テ自ラ支払ノ責ニ任シタルモノト看做サルル場合ニハ支払地ニ於ケル支払ノ場所ヲ記載スルコトヲ得ヘク第二項ニ付本項ノ場合ニモ引受人ハ支払ヲ為スヘキ第三者ヲ定メ得ヘキ様規定ヲ設クヘキ旨提案シタルトコロ會議ニ於テハ斯ル事項ハ解釈上当然ノ事ニ属シ別ニ規定ヲ設クルノ要ナカルヘシト為シタルニヨリ之ヲ「ラポート」中ニ明記セシメタリ

訓令乙六ニ付テハ本条ノ討議ニ際シ其ノ旨趣ノ提案ヲ為シタルトコロ會議ニ於テハ第六章支払ニ関スル討議ノ際研究スルコト、ナリシモ其ノ後之ヲ起草委員會ニ於テ考究スルコト、ナリ考究ノ結果遂ニ我商法第四百九十条第一項ノ如キ事項ハ解釈上推知シ得ヘク又同条第二項ノ如キ規定ハ本統一法ノ主義ト相容レストシ我提案ハ遂ニ採用セラル、ニ至ラサリキ

第二十七条（新第二十八条）

原案通可決

第二十八条（新第二十九条）

原案ニ対シテハ多クノ修正ヲ加ヘラレタリ即「手形ヲ交付スル以前」ヲ「手形ヲ返還スル以前」ト修正シ尚本文ニ続キ「反對ノ證據ナキ限り抹消ハ手形ヲ返還スル以前ニ為シタルモノト推定ス」トノ推定規定ヲ挿入シ但書以下ハ之ヲ第二項トシ「然レトモ支払人カ書面ヲ以テ所持人又ハ手形ニ署名シタル者ニ引受ノ通知ヲ為シタルトキハ此等ノ者ニ対シテハ引受ノ文言ニ從ヒ責任ヲ負フ」ト修正シタリ討議ニ於テハ本条但書以下ハ之ヲ削除シ一度引受ヲ為シタル以上最早之ヲ撤回スルコト能ハサラシムヘシト主張スル者アリシモ斯クテハ誤マリテ引受ノ文言ヲ記載シタルカ如キ場合ニ於テモ此ノ嚴格ナル原則ニ從ハシムルコト、ナリ不都合ヲ生スヘク又引受ノ文言ノ抹消カ事実存在スルニ拘ハラス引受ハ尚存スルモノト為ササルヘカラススル修正ハ不当ナリトシテ採用セラレサリキ

第二十九条（新第三十条）

討議ノ結果統一法ニ於テ一部保証ヲ認ムルコト、ナリ原案ノ「之ヲ担保スルコトヲ得」ヲ「金額ノ全部又ハ一部ヲ担保スルコトヲ得」ト修正シタリ

第三十条（新第三十一条）

原案通可決

第三十一条（新第三十二条）

第一、二項ハ原案通可決

第三項ハ討議ノ結果「其ノ保証セラレタル者及其ノ者ノ前者ニ対シ溯及權ヲ有ス」ナル文句ヲ「其ノ保証セラレタル者及其ノ者ノ手形上ノ義務者ニ対シ手形上ノ權利ヲ取得ス」ト修正シ保証人ハ前者タル裏書人ニ対シ溯及權ヲ有スルノミナラス引受人ニ対シテモ溯及權ヲ有スヘキコトヲ明ニシタリ

第三十一条甲

本条ハ統一法中ヨリ削除スルコトニ決シタリ本条立案ノ趣旨ハ別紙ニ依ル保證ノ制度ヲ採用シ居レル国（例之仏国）ニ對シ除外例ヲ認メントスルニ在リシモ會議ニ於テハ海牙規則案ニ倣ヒ留保規定ヲ設ケテ締約国ハ之カ除外例ヲ認ムルコトヲ得ルコト、シ条約附屬書第二留保事項第四条ヲ設ケタルニヨリ本条ヲ削除シタルモノナリ

第三十二条（新第三十三条）

單一第一項ニ付各号ノ順序ヲ變更シタル外原案通可決シタリ各号ノ順序ヲ變更シタルハ其ノ順序ヲ第三十四条以下ノ規定ト相照応セシメントシタルニ過キス

第三十三条（新第三十四条）

原案「一覽後定期払手形ノ引受ノ呈示ニ関スル法定又ハ約定ノ期間内」ヲ「日附ノ日ヨリ一年ノ期間内」ト修正シ尚原案ノ末尾ニ「振出人ハ此ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得ヘク又之ヨリ長キ期間ヲ定ムルコトヲ得裏書人ハ此等ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得」トノ規定ヲ附加シタリ是レ第二十二條（新第二十三條）ノ修正ニ伴ヒ修正セラレタルモノナリ
又會議ニ於テハ原案ノ条文ヲ第一項トシ新ニ第二項トシテ「振出人ハ一定ノ期限迄ハ為替手形ノ支払要求ノ呈示ヲ為スヘカラサルコトヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ呈示ノ期間ハ右期限ヨリ進行ス」トノ規定ヲ設ケタリ是レ一定ノ日ノ後又ハ一定ノ期間經過後ノ一覽ノ日ニ支払ハルヘキコトヲ定メタル為替手形ニ付其ノ期日前又ハ期間中ハ支払要求ノ呈示ヲ為スコトヲ得ヘキヤ否ヤ若シ得サルモノトスレハ第一項ノ呈示期間ハ何時ヨリ計算スヘキヤニ付議論生シタリシヨリ之ヲ統一法中ニ明ニシタルモノトス

第三十四条（新第三十五條）

「法定又ハ約定ノ呈示期間」ヲ「引受ノ呈示ノ為ニ定メラレタル期間」ト修正シタリ之レ前條ノ修正ト調和ヲ保タシムル為單一文字ヲ改メタルニ過キス

第三十五條（新第三十六條）

原案通可決

第三十六條（新第三十七條）

原案通可決

第三十七條（新第三十八條）

第一項ノ「所持人ハ」ヲ「確定日払、日附後定期払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ノ所持人ハ」ト修正シタリ一覽払ノ所持人ニ付テハ第三十四條ニ規定スルコロニシテ本条ハ前記手形ノ所持人ノミニ関スルモノナルヲ以テ其ノ旨ヲ明ニシタルニ過キス

第二項ハ原案通可決

第三項ハ之ヲ削除シタリ蓋シ附屬書第二留保規定第六條ニ之ニ付テノ規定ヲ設ケタルニ因ル

第三十八條（新第三十九條）

原案通可決

第三十九條（新第四十條）

第一、二項ハ原案通可決

第三項ニ付テハ第十五條（新第十六條）トノ關係ヲ考慮シ「悪意」ナル文字ハ「詐害ノ意思」(une fraude)ト改メタリ手形金支払ニ付テノ支払人ノ地位ト手形取得ニ付テノ所持人ノ地位トハ之ヲ同一ニ論スルコトハ妥当ナラスト為シタリシニ因ル

第四十條（新第四十一條）

第一項ニ付テハ訓令乙十一ニ基キ外国貨幣ノ換算率ヲ裏書人ニ定メシムルコトヲ許シタル理由ヲ釈明シタルコロ首肯スヘキ理由ヲ聴クコトヲ得サリシヲ以テ之カ削除ヲ主張シ多数ノ賛同ヲ得「又ハ裏書人ニ依リ定メラルヘキ率」ナル文

句ヲ削除シタリ又訓令乙十ノ「支払ヲ求ムルコトヲ得ヘキ日」ハ満期前ノ溯及ノ場合ヲモ含ムトノ我解釈ハ會議ニ於テ是認セラレタリ

原案第一項ハ前記ノ如ク我國ノ提案ニ依ル削除アリタル外起草委員會ニ於テ「支払ヲ求ムルコトヲ得ヘキ日」ヲ「満期」ト修正シ尚同項前段ノ規定ニ於テ本文ニ続キ「債務者カ支払ニ付遲滞アリタルトキハ所持人ハ其ノ選択ニ從ヒ満期又ハ支払ノ日ニ於ケル相場 (course) ニ依リ其ノ国ノ貨幣ヲ以テ手形金額ヲ支払フヘキコトヲ請求スルコトヲ得」トノ規定ヲ設ケ但書ハ之ヲ第三項ト為シ第一項後段ノ「外国貨幣ノ価格ハ支払地ノ慣習ニ依リ云々」ノ規定ハ之ヲ第二項トシ且「此ノ場合ニ於テハ云々」ノ文句ハ之ヲ削除シ原案第二項ノ規定ハ之ヲ第四項ト為シタリ

帝國代表ハ起草委員會カ右ノ如ク支払ヲ求ムルコトヲ得ヘキ日ヲ満期ト修正シタルヲ以テ斯克テハ解釈上満期前ノ溯及ノ場合ヲ包含セシムルコト能ハサルニ至ルヘキコトヲ顧慮シ此ノ点ニ付原案維持ヲ主張シタルトコロ満期前溯及ノ場合ハ其ノ溯及ヲ為シタル日ヲ以テ満期ト見ルコトヲ得ヘシトテ右ノ主張ハ容ルルトコロトナラサリキ結局會議ニ於テ確定セラレタル規定ノ全文ハ左ノ如シ

「支払地ニ於テ通用セサル貨幣ヲ以テ支払金ヲ記載シタル為替手形ニ於テハ満期ニ於ケル価格ニ依リ其ノ国ノ貨幣ヲ以テ支払金額ヲ支払フコトヲ得債務者カ支払ニ付遲滞アリタルトキハ所持人ハ其ノ選択ニ從ヒ満期若ハ支払ノ日ニ於ケル相場ニ依リ其ノ国ノ貨幣ヲ以テ手形金額ヲ支払フヘキコトヲ請求スルコトヲ得

外国貨幣ノ価格ハ支払地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ手形ニ記載シタル率ニ依リ手形金額ヲ計算スヘキコトヲ得ムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ振出人カ特定ノ貨幣ヲ以テ支払フヘキ旨ヲ定メタル場合 (現実ニ外国貨幣ヲ以テ支払フヘキ文句) ハ此ノ限ニ在ラス

振出地ト支払地トノ間ニ於テ同名異価ヲ有スル貨幣ニ依リテ手形金額ヲ定メタルトキハ支払地ノ貨幣ニ依リテ之ヲ定メ

タルモノト推定ス」

第四十一条 (新第四十二条)

原案通可決

第四十二条 (新第四十三条)

「引受ノ拒絶アリタル場合」ヲ「引受ノ全部又ハ一部ノ拒絶アリタル場合」ト修正シタル外原案通可決シタリ訓令乙十二付テハ第一読会ニ於テ否決セラレタルモ第二読会ニ至リ之ヲ變更シテ我提案ハ採用セラレ第三号ノ振出人ノ状態ヲ第二号ノ支払人ノ状態ト同一ニ定ムヘキコト、ナリタリシモ更ニ第四十三条トノ調和上三變シテ遂ニ否決セラル、ニ至レリ

第四十三条 (新第四十四条)

第一項、第四項及第五項ハ何レモ原案通可決

第二項ハ「第二十三条」ヲ「第二十四条」ト整理上ノ訂正ヲ為シ原案通可決シタリ

第三項ハ「確定日払、日附後又ハ一覽後定期払ノ為替手形ノ支払拒絶證書ハ手形ノ支払日ニ次ク二營業日中ニ之ヲ作成セシムルコトヲ要ス一覽払手形ノ拒絶證書ハ引受拒絶證書作成ニ関スル前項ノ条件ニ從ヒ作成セシムルコトヲ要ス」ト修正シタリ是レ會議ニ於テ満期ノ日ハ全一日債務者ニ於テ支払ヲ為シ得ヘキ日ナルヲ以テ其ノ日ニ拒絶證書ヲ作成シ得ヘキモノト為スハ妥当ニ非ラス宜シク支払日ニ次ク二營業日中ニ作成スヘキモノトスヘシトノ議論アリ又和蘭國代表ハ第三項ニ付テハ一覽払手形ト前記手形トハ之ヲ區別シテ觀察スヘク後者ニ付テハ単ニ之ヲ作成セサリシトノ事實ノミヲ以テシテハ未タ以テ失權ノ効果ヲ生スヘキニ非ラス呈示期間内ナラハ何時ニテモ拒絶證書ヲ作成スルコトヲ得ヘキモノナル旨ノ「オブサーベーション」 (observation) ヲ為シタル結果ニ外ナラス

第四十四条 (新第四十五条)

第一項、第三項乃至第六項ハ原案通可決セラル

帝國代表ハ訓令乙十三ニ基キ第一項ニ付「四營業日」ヲ「二營業日」ト改ムヘキコトヲ提案シタルトコロ會議ニ於テ賛同ヲ得ル能ハス否決セラレタリ

第二項ニ付テハ訓令乙十三ノ趣旨ニ基キ「二日ノ期日」ヲ「通知ヲ受ケタル日ニ次ク二營業日」ト修正スヘキ旨提案ヲ為シタルトコロ多數ノ賛同ヲ得其ノ趣旨ニ修正セラレタリ尚同項ハ第一項後段トシテ第一項中ニ繰上ケラレ第二項トシテ「前項ノ規定ニ從ヒ為替手形ノ署名者ニ對シ通知ヲ為ストキハ手形保證人ニ對シテモ同一期間内ニ同一ノ通知ヲ為スコトヲ要ス」トノ新規定ヲ設ケタリ蓋シ為替手形ノ前項ノ各署名者ニ對シ通知ヲ為スト同時ニ其ノ者ノ手形保證人ニ對シテモ同様ノ通知ヲ為スヲ適當トシタルニ因ル

帝國代表ハ訓令乙十四ニ基キ振出人カ宿所ヲ記載セサル場合又ハ之ヲ記載シタルモ読ミ難キ場合ニハ振出人ニ對シテ通知ヲ為サ、ルコトヲ得ヘキ旨ノ規定ヲ加フヘキコトヲ提案シタルトコロ會議ニ於テハ斯ル事項ハ条文ノ解釈上之ヲ是認スルコトヲ得ヘキヲ以テ其ノ必要ナシトシテ採用セラレサリキ

又訓令乙十五ニ基キ第四十四條末項ノ通知懈怠ニ因ル損害賠償カ為替手形ノ金額ヲ超ユルコトヲ得サルモノト為シタルハ其ノ理由ナキモノト認ムルヲ以テ之ヲ削除スヘキ旨主張シ伊國代表ハ之ニ賛意ヲ表シタルモ議長ハ右文句ヲ削除スルハ甚タ危險ナリ單ニ通知ヲ為サ、リシトノ事實ノミニ依リテハ之ニ因ル損害ハ手形金額ヨリ大ナルコトナカルヘシト反對シ和蘭國代表瑞西國代表等モ反對意見ヲ述ヘ討議ノ結果否決セラレタリ

第四十五條（新第四十六條）

第一項ニ於テハ引受拒絕證書作成ノ免除ヲ為シ得ヘキ者ハ振出人ニ限ラレ居リタリシニ會議ニ於テハ裏書人及保證人ニモ斯ル權能ヲ認ムヘキコト、ナリ又其ノ文句ヲ手形ニ記載スヘキコトヲ明ニシ且之ニ署名ヲ為スヘキコト、為シタリ從テ原案第一項「振出人、裏書人又ハ保證人」ト修正シ第二項ハ之ヲ削除シタリ

原案第三項ハ第二項トナリ「其ノ前者タル裏書人若ハ振出人ニ」ノ文字ハ之ヲ削除シタリ蓋第四十四條（新第四十五條）修正ノ結果保證人ニ對シテモ引受拒絕ノ通知ヲ為スヲ要スルコト、ナリタルヲ以テナリ

原案第三項ニ付テハ第一項修正ノ結果裏書人又ハ保證人ノ記載シタル拒絕證書作成免除ノ文言ノ効力及此ノ免責文言アルニ拘ハラス所持人カ拒絕證書ヲ作成シタル場合ノ費用負擔者ニ付規定ヲ為スノ必要ヲ生シ討議ノ結果「第一項ノ文句ハ振出人カ記載シタルトキハ手形ニ署名シタル一切ノ債務者ニ對シ其ノ効力ヲ有シ裏書人又ハ保證人カ記載シタルトキハ其ノ者ニ對シテノミ効力ヲ有ス所持人カ振出人ノ記載シタル文句ニ拘ハラス拒絕證書ヲ作成セシメタル場合ニ於テハ其ノ費用ハ右所持人ノ負擔トス右文句カ裏書人又ハ保證人ノ記載シタルモノナル場合ニ於テ拒絕證書ヲ作成セシメタルトキハ其ノ費用ハ一切ノ署名者ニ對シ請求スルコトヲ得」ト修正シタリ

第四十六條（新第四十七條）

原案通可決

第四十七條（新第四十八條）

第三号ノ「所持人カ前ノ裏書人及振出人ニ對シテ為シタル通知ノ費用」ヲ單ニ「通知ノ費用」ト修正シタル外原案通可決シタリ右修正ヲ為シタルハ新第四十五條ニ於テ保證人ニ對スル通知ノ規定ヲ設ケタルニ因ル

第四十八條（新第四十九條）

原案通可決

第四十九條（新第五十條）

原案通可決

第五十條（新第五十一條）

原案通可決

第五十一条(新第五十二条)

第一項ニ於テ「其ノ前者ノ一人ニ対スル他所払ニ非サル一覽払ノ新為替手形」ナル文句ヲ「其ノ前者ノ一人ニ対スル一覽払ニシテ且其ノ者ノ住所ニ於テ支払ハルヘキ新為替手形」ト修正シタル外原案通可決シタリ

帝国代表ハ訓令乙十六ニ基キ釈明ヲ求メタルトコロ「反対ノ約定」ノ意義ハ所持人ト振出人トノ間ノ戻手形ノ振出禁止ノ約定ノ義ナルコトヲ明ニスルヲ得タリ

第五十二条(新第五十三条)

原案通可決

第五十三条(新第五十四条)

本条ニ付テハ墺国代表ハ海牙規則案第五十三条ノ規定ヲ復活スヘシト提案シ「チエツコスロヴァキア」国代表亦一ノ提案ヲ為シ帝国代表亦訓令乙十七ニ基キ海牙規則案第五十三条第四項第五項ヲ復活セシムヘキ旨ノ提案ヲ為シタリ

會議ニ於テ討議シタル結果海牙規則案第五十三条ヲ本統一法ニ復活スルコトニ決シ尙「モラトリウム」ノ如キ場合モ不可抗力ノ一場合トシテ之ヲ明定スヘシトノ意見アリ討議ノ結果一覽払手形ト一覽後定期払手形トニ付區別ヲ設ケタル上左ノ如ク修正シタリ

「抗拒スヘカラサル障礙(国家ノ法規其ノ他ノ不可抗力ノ場合)ニ因リテ所定ノ期間内ニ為替手形ヲ呈示シ又ハ拒絕證書ヲ作ルコト能ハサリシトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ遲滞ナク自己ノ裏書人ニ不可抗力ノ生シタルコトヲ通知シ且手形又ハ補箋ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ノ事項ニ付テハ第四十五条ノ規定ヲ適用ス

不可抗力ノ止ミタルトキハ所持人ハ遲滞ナク引受又ハ支払ヲ求ムル為メ為替手形ヲ呈示スルコトヲ要シ若シ拒絕證書ヲ要スルトキハ之ヲ作成セシムルコトヲ要ス

不可抗力カ満期ヨリ三十日以上継続スルトキハ為替手形ノ呈示又ハ拒絕證書ノ作成ヲ要セスシテ溯及權ヲ行フコトヲ得一覽払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ經過前ト雖モ所持人カ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ為シタル日ヨリ經過ス一覽後定期払手形ニ付テハ此ノ期間ハ三十日ニ其手形ニ記載セラレタル一覽後ノ期間ヲ加算シタルモノトス

所持人又ハ所持人カ手形ノ呈示若ハ拒絕證書ノ作成ヲ委任シタル者ニ関スル單純ナル人的事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト看做サス

第五十四条(新第五十五条)

第一項ニ於テ保證人モ亦振出人及裏書人ト同様引受又ハ支払ヲ為スヘキ者ヲ定ムルコトヲ得セシムルコト、シ「振出人又ハ裏書人ハ」ヲ「振出人、裏書人又ハ保證人ハ」ト修正シタリ

第二項ニ於テハ「手形署名者」ヲ「溯及セラルヘキ債務者」ト修正シ手形金支払ニ付テノ絶對的債務者タル引受人ヲ除外スルモノナルコトヲ明ニシタリ

第三項ニ付テハ「遲滞ナク」ヲ「二營業日内」ト修正シ後段トシテ「此ノ期間ヲ遵守セサル場合ニ於テハ参加人ハ懈怠ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但シ其ノ損害賠償ハ手形金額ヲ超ユルコトヲ得ス」トノ規定ヲ設ケタリ

帝国代表ハ訓令乙十八ニ基キ「必要ノ場合ニ於テ引受又ハ支払ヲ為スヘキ者」ハ支払地ニ住所又ハ營業所ヲ有スルモノニ限ルコト、スヘキ旨ノ提案ヲ為シタルトコロ議長ハ原案第五十五条(新第五十六条)ニ付伊国代表ヨリ後述ノ如キ修正案ノ提出アリテ該案ニ依レハ本条モ亦自ラ日本ノ提案ノ如ク解釈スルコトヲ得ヘキ旨ヲ述ヘ先ツ次条ニ付討議シ伊国提案ニ基キ並条文ノ修正ヲ為シ次テ本条ノ討議ニ移リタルトコロ本条ニ付テノ我國ノ提案ニ付賛成スルモノナク寧ロ

「必要ノ場合ニ於テ引受又ハ支払ヲ為スヘキ者」ハ必スシモ支払地ニ住所又ハ營業所ヲ有スルモノニ限ラサルヲ適當トスヘシトノ意見優勢トナリ之カ為我提案ハ採用セラル、ニ至ラサリキ

第五十五条（新第五十六条）

第一項ハ原案通可決

第二項ニ付テハ重要ナル變更ヲ受ケタリ即チ原案ハ所持人ハ参加引受ヲ拒ムコトヲ得ルモノト為シアリタルニ會議ニ於テ伊国代表ノ修正案即チ第二項ヲ「振出人又ハ裏書人カ第五十四条第一項（原案）ノ規定ニ依リテ為替手形引受ノ為支払地ニ住所ヲ有スル予備支払人ヲ指定シタルトキハ所持人ハ所定ノ期間内ニ参加引受ヲ得ル為其ノ者ニ手形ヲ呈示シ其ノ拒絕ノ場合ニ於テハ拒絕證書ヲ作成セサルヘカラス其ノ手続ヲ怠リタルトキハ期限前ノ溯及權ヲ失フ其ノ他ノ總テノ場合ニハ所持人ハ参加引受ヲ拒ムコトヲ得但シ参加引受ヲ受諾シタルトキハ前者ニ對シ期限前ニ有シタル溯及權ヲ失フ」旨ノ提案ニ付討議シタル結果之ヲ採用シ原案ノ主義全ク變更セラレタリ

修正セラレタル第二項以下ノ規定ハ左ノ如シ
「為替手形ニ必要ノ場合ニ引受又ハ支払ヲ為スヘキ者ニシテ支払地ニ住所ヲ有スルモノヲ指定セラレタルトキハ所持人ハ其ノ者ニ為替手形ヲ呈示シ其ノ引受カ拒絕證書ヲ以テ其ノ拒絕セラレタル事實ヲ證明スルニ非サレハ其ノ指定ヲ為シタル者及其ノ後ノ署名者ニ對シ期限前ノ溯及權ヲ行使スルコトヲ得ス（第二項）

其ノ他ノ参加ノ場合ニ於テハ所持人ハ参加引受ヲ拒ムコトヲ得但シ所持人カ参加引受ヲ受諾シタルトキハ被参加人及其ノ後ノ署名者ニ對シ期限前ノ溯及權ヲ失フ」（第三項）

第五十六条（新第五十七条）

原案通可決

第五十七条（新第五十八条）

第一項ハ原案通可決

第二項ニ付テハ訓令乙十九ニ依リ原案第四十九条（新第五十条）トノ權衡上受取ヲ證シタル計算書ノ交付ヲ請求シ得ル

旨ヲ加フヘキコトノ提案ヲ為シタルコロ多数ノ賛同ヲ得テ「拒絕證書」ナル文句ヲ「拒絕證書及受取ヲ證シタル計算書」ト修正シ尚「第四十七条」ヲ「第四十八条」ト条文整理上ノ訂正ヲ為シタリ

第五十八条（新第五十九条）

第一項第二項共原案通可決

尚原案第六十条第一項ノ規定ヲ本条ニ移スヲ適當ト認メ之ヲ第二項トシテ「支払ハ被参加人カ支払ヲ為スヘキ義務アル金額ノ全部ニ付之ヲ為スコトヲ要ス」トノ規定ヲ置キタリ本条第二項ハ從テ第三項ト為リタリ

第五十九条（新第六十条）

原案第五十四条ニ付テノ帝國代表ノ提案ハ會議ノ採用スルコトナラス從テ支払地ニ住所ヲ有セサル者ト雖「必要ノ場合ニ引受又ハ支払ヲ為スヘキ者」トシテ手形ニ記載セラルルコトヲ得ルコト、ナリタルモ伊国代表ノ提案ニ基キ新第五十六条（原案第五十五条）ニ於テハ引受ノ為ノ呈示及拒絕證書ノ作成ノ必要ハ支払地ニ住所ヲ有スル者ノ場合ニ限定セラレタルコトハ既ニ述ヘタルトコロナリ今本条ノ支払ノ為ノ呈示及拒絕證書ノ作成ニ付テモ亦右ト同一趣旨ニ於テ規定スルコト適當ニシテ且我國ノ前記提案ノ趣旨トモ合致スル所以ナルヲ思ヒ帝國代表ハ本条第一項ノ「必要ノ場合ニ支払ヲ為スヘキ者」モ亦支払地ニ住所ヲ有スル者ニ限定スヘキ旨ヲ主張シタルコロ多数ノ賛同ヲ得其ノ結果原案第一項ノ「手形ニ参加引受アリタルトキ」ヲ「手形カ支払地ニ住所ヲ有スル参加人ニ依リ引受セラレタルトキ」ト「必要ノ場合ニ於テ支払ヲ為スヘキ者ノ指定アリタルトキ」ヲ「必要ノ場合ニ於テ支払ヲ為スヘキ者ニシテ支払地ニ住所ヲ有スルモノノ指定アリタルトキ」ト各修正シタリ

第二項ハ原案通可決セラレタリ

第六十条（新第六十一条）

原案第一項ハ既ニ述ヘタル如ク新第六十条ノ第二項トシテ規定セラレタリ

第二項ハ其ノ第一項ヲ他条ニ移シタル結果「前項ノ支払」ヲ「参加支払」ト字句ノ修正ヲ為シタル外原案通可決セラル
第六十一条（新第六十二条）
原案通可決

帝国代表ハ訓令乙十九ニ基キ第四十九条（新第五十条）トノ權衡上受取ヲ證シタル計算書ノ交付ヲ請求シ得ル旨ヲ加フ
ヘキコトヲ提案シタルトコロ本条ノ場合ニ在リテハ為替手形ニ被参加人ヲ明示シテ受取ヲ記入スヘキモノナレハ斯ル必
要ナカルヘシトノ理由ヲ以テ採用セラルルニ至ラサリキ

第六十二条（新第六十三条）

第一項ニ付二個ノ修正意見アリ其ノ一ハ参加支払人ノ取得スル權利ハ手形法上ノ權利ナルニ其ノ取得ニ付 Subroger ナ
ル普通法ノ代位ノ觀念ヲ有スル文字ヲ使用スルハ不精確ナリト云フニアリ其ノ二ハ「前者」ナル文字ハ引受人ヲ包含セ
サルカ如ク解釈セラレ是亦不精確ナリト云フニ在リテ討議ニ於テハ右ノ意見ハ何レモ認容セラレ Subroger ナル文字ニ
代フルニ acquérir ナル文字ヲ以テシ「其ノ前者」ナル文字ヲ「其ノ者ノ為替手形上ノ義務者」ナル文字ニ修正シ以テ本
条ノ權利取得ハ代位ニ因ルモノニ非サルコト及参加支払人ハ引受人ニ対シテモ手形上ノ權利ヲ取得スヘキコトヲ明ニシ
タリ

第六十三条（新第六十四条）

第一項ハ原案通可決

第二項ハ「複本ニハ手形ノ文言中ニ番号ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ欠クトキハ各複本ハ之ヲ各別ノ為替手形ト看做ス」ト
修正シ第三項トシテ左ノ規定ヲ新設シ所持人ニ複本ノ請求權ヲ認メタリ

「為替手形ノ所持人ハ手形上ニ一通ヲ以テ振出サレタルモノナルコトノ記載ナキトキハ自己ノ費用ヲ以テ数通ノ複本ノ
交付ヲ請求スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ所持人ハ直接ノ裏書人ニ対シ其ノ請求ヲ為スヘク右裏書人ハ又自己ノ裏書

人ニ対シ其ノ旨ヲ通シ斯クシテ順次振出人ニ及フモノトス各裏書人ハ新ナル複本ニ其ノ裏書ノ記載ヲ為スノ義務ヲ有
ス」

第六十四条（新第六十五条）

原案通可決

第六十五条（新第六十六条）

原案通可決

第六十六条（新第六十七条）

原案通可決

帝国代表ハ訓令乙二十一ニ基キ謄本ノ作成ハ一通ニ限ルヘキコトヲ提案シタルトコロ賛成者ヲ得ル能ハス否決セラレ数
通ノ謄本ノ作成ハ可能ナルコト、ナリタリ仍テ更ニ謄本ニ付テモ第六十四条（新第六十五条）ノ如キ規定ヲ設クヘキ旨
ノ主張ヲ為シタルトコロ亦賛成ヲ得ル能ハサリキ

第六十七条（新第六十八条）

第一項原案通可決

第二項ハ前条第三項ノ規定ト調和ヲ保タシムル為メ「謄本ノ裏書人ニ」ヲ「謄本ノ裏書人又ハ保證人ニ」ト修正シタリ
尚第三項トシテ左ノ規定ヲ新設シ謄本ノ所持人ノ權利ヲ保護スルコト、ナシタリ

「謄本作成前ニ為シタル最後ノ裏書ノ後ニ以後裏書ハ謄本ニ為シタルモノ、外効力ヲ有セストノ文句其ノ他之ト同様ノ
文言ノ記載アルトキハ原本ニ為シタル其ノ後ノ裏書ハ無効トス」

第六十八条

本条ハ之ヲ削除シタリ蓋シ既ニ述ヘタル如ク本条規定ノ趣旨ハ之ヲ第七条中ニ併セ規定シタルトコロナレハナリ

第六十九条（新第六十九条）

原案通可決

第七十条（新第七十条）

原案通可決

第七十一条（新第七十一条）

原案通可決

第七十二条（新第七十二条）

訓令乙二十二ニ付テハ會議ニ於テ本条ニ所謂法定ノ休日トハ法令ニ依テ定メラレタル休日ヲ指スト解スルコト、ナレルヲ以テ帝國代表ハ法定ノ休日ヲ法定又ハ法ノ認ムル慣習ニ因リ若ハ法ニ基キ定メラレタル休日ト改メンコトヲ提議シタルモ容レラレス其ノ間仏國代表ハ本条ニハ法令ニ依ル休日トアルモ各國ハ国内法ヲ以テ右休日ニ準スヘキ日ヲ定ムルコトヲ得ヘキ旨ノ留保規定ヲ設クヘシト提案シテ採用セラレ手形条約附屬書第二ニ其ノ旨ノ規定ヲ設クルコト、ナリ隨テ各國ハ法令ニ依ル休日ニ準スヘキ日ヲ定ムルコトヲ得ルニ至リ多少緩和スルコトヲ得ルニ至リタルヲ以テ之ヲ以テ満足スルコト、為シタリ

第七十三条（新第七十三条）

原案通可決

第七十三条甲条（新第七十四条）

原案通可決

第七十四条（新第七十五条）

原案通可決

訓令乙一ノ署名ニ付テノ留保ノ主張並其ノ結果ニ付テハ既ニ總論ニ於テ述ヘタルトコロノ如シ

第七十五条（新第七十六条）

原案通可決

第七十六条（新第七十七条）

原案ト統一法トノ条文ノ順序ニ差異アルコト統一法ニ於テハ他所払手形ナル文字ノ使用ヲ避ケ之ニ代フルニ第三者方払手形又ハ支払人ノ住所地ニ非サル地ニ於テ支払フヘキ手形ナル文字ヲ以テシタルコト及白地手形ニ関スル規定ヲ新設シタルコト等ニ因リテ自ラ原案条文ニ修正ヲ加フルニ至レリ又保證ニ関スル規定ノ適用ニ関シテハ之ヲ末項ニ規定シ且保證ハ何人ノ為ニ為サレタルカラ示サ、ルトキハ約束手形ノ振出人ノ為ニ為シタルモノト看做ス旨ヲ明ニシタリ新条文ノ全文ハ左ノ如シ

為替手形ニ関スル次ノ規定ハ約束手形ノ性質ニ反セサル限り之ヲ約束手形ニ適用ス

裏書人ニ関スル規定（第十一条乃至第二十二条）

満期ニ関スル規定（第三十三条乃至第三十七条）

支払ニ関スル規定（第三十八条乃至第四十二条）

支払拒絶ノ場合ニ於ケル溯及ニ関スル規定（第四十三条乃至第五十条第五十二条乃至第五十四条）

参加支払ニ関スル規定（第五十五条第五十九条乃至第六十三条）

謄本ニ関スル規定（第六十七条及至第六十八条）

偽造及変造ニ関スル規定（第六十九条）

時効ニ関スル規定（第七十条及第七十一条）

休日、期間ノ計算及恩恵日ノ禁止ニ関スル規定（第七十二条、第七十三条及第七十四条）

第三者方払手形又ハ支払ノ住所地ニ在ラサル地ニ於テ支払フヘキ手形ニ関スル規定（第四条及第二十七条）利息ノ約束ニ関スル規定（第五条）手形金額記載ノ差異ニ関スル規定（第十六条）第七条ニ規定セラレタル条件ノ下ニ在ル署名ノ効果ニ関スル規定（第七条）及権限ナクシテ又ハ之ヲ踰越シテ為シタル者ノ署名ノ効果ニ関スル規定（第八条）白地手形ニ関スル規定（第十条）モ亦約束手形ニ適用ス

保證ニ関スル規定モ亦約束手形ニ適用ス（第三十条乃至第三十二条）第三十一条末項ノ場合ニ於テ保證ハ何人ノ為ニ為シタルカラ示サ、ルトキハ約束手形ノ振出人ノ為ニ為シタルモノト看做ス

第七十七条（新第七十八条）

原案通可決但シ第二十二條ハ第二十三條ト（第二十四條）ハ（第二十五條）ト条文整理上ノ訂正ヲ為シタリ

第二章 手形条約附屬書第二留保規定

統一規則案ノ討議中各国代表ハ其ノ国ノ法規等トノ關係ヲ考慮シ留保ノ条項ヲ定ムヘキコトヲ主張シタル結果手形条約附屬書第二トシテ幾多ノ留保規定ノ成立ヲ見ルニ至リタルコトハ既ニ総論ニ於テ述ヘタルコロノ如シ今左ニ其ノ規定ヲ掲記スルコトトス

第一条 各締約国ハ本条約ノ効力發生後六月間ニ限り其ノ領域内ニ於テ振出ス為替手形ニ統一法第一条第一号ニ依リテ為替手形ナル名称ハ之ヲ記載スルコトヲ要セサル旨ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二条 各締約国ハ其ノ領域内ニ於ケル為替手形上ノ約束ニ付署名ニ代ハル方法ヲ定ムルノ權利ヲ有ス但シ為替手形ニ記載セル公ノ宣言ヲ以テ署名ヲ為スヘカリシ者ノ意思ヲ確認スルコトヲ要ス

（註）此ノ規定ハ不具者其ノ他署名ヲ為スコト能ハサル者ニ関スルモノトス

第三条 各締約国ハ統一法第十条ヲ其ノ国ノ法律ニ規定セサルノ權ヲ留保ス

第四条 各締約国ハ統一法第三十一条第一項ノ規定ニ拘ハラス其ノ領域内ニ於テ為ス手形保證ハ別紙ヲ以テ其ノ保證アリタル地ヲ表示シテ之ヲ為スコトヲ得ヘキ旨ヲ規定スルコトヲ得

第五条 各締約国ハ其ノ領域内ニ於テ支払ハルヘキ為替手形ニ付所持人ハ満期ノ日ニ手形ノ呈示ヲ為スヘク此ノ義務ヲ履行セサルトキハ損害ノ賠償ヲ為スヘシトノ定ヲ為シ統一法第三十八条ノ規定ヲ補充スルコトヲ得

他ノ締約国ハ斯ル義務ヲ如何ナル条件ヲ以テ認ムヘキカラ定ムルコトヲ得

第六条 統一法第三十八条末項ノ適用ニ付テハ締約国ハ其ノ国ノ法律ヲ以テ手形交換所ト認ムヘキ施設ヲ定ムルコトヲ得
第七条 各締約国ハ其ノ国ノ為替相場ニ関スル特別ノ事情アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ領域内ニ於テ支払ハルヘキ為替手形ニ付テノ外国貨幣ノ現実ノ支払ニ関スル統一法第四十一条ノ文言ノ効力ヲ認メサルコトヲ得自国領域内ニ於テ外国貨幣ヲ以テ表示シタル為替手形ノ振出ニ付亦右原則ハ適用セララルヘシ

第八条 各締約国ハ其ノ領域内ニ於テ作成スヘキ拒絕證書ニ付テハ振出人カ為替手形中ニ公正ノ證明ニ依ル拒絕證書ヲ要スル旨ヲ記載シタル場合ヲ除キ為替手形中ニ記載シ且支払人ノ署名シタル日附アル證明ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定スルコトヲ得

締約国ハ又右證明ハ拒絕證書作成期間内ニ公簿上ニ登録スヘキコトヲ規定スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ日附ノ記載ナキ裏書ハ拒絕證書作成前ニ作成セラレタルモノト看做ス

第九条 各締約国ハ統一法第四十四条第三項ノ規定ニ拘ハラス支払拒絕證書ハ為替手形ノ支払ハルヘキ日又ハ之ニ次クニ營業日内ニ作成スヘキコトヲ規定スルコトヲ得

第十条 統一法第四十三条第二号第三号及第四十四条第五項第六項ノ規定ニ依ル精確ナル法律上ノ狀態ハ各締約国ノ法制ニ依リ定マルモノトス

第十一条 各締約国ハ統一法第四十三条第二号第三号及第四十四条ノ規定ニ拘ハラス其ノ法制中ニ償還請求ノ通知ヲ受ケ

タル前者ニ対シ如何ナル場合ニ於テモ手形ノ満期ヲ超ヘサル範圍ニ於ケル期間ヲ与フルコトヲ得ヘキ旨ヲ定ムルノ權ヲ留保ス

第十二条 各締約国ハ統一法第四十五条ノ規定ニ拘ハラス公務員ニ依ル通知ノ制度即チ拒絕證書作成ノ權限ヲ有スル公證人又ハ官吏カ引受又ハ支払ノ拒絕證書ヲ作成スルニ当リ手形債務者ノ住所カ手形面ニ記載シアルカ拒絕證書作成ノ公務員カ之ヲ知レルカ又ハ拒絕證書作成ノ依頼者ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ者ニ対シ書面ニ依ル通知ヲ為スコトヲ要スル制度ヲ維持シ又ハ創始スルコトヲ得

第十三条 各締約国ハ其ノ領域内ニ於テ振出し且支払フヘキ為替手形ニ關シテハ統一法第四十八条第二号及第四十九条第二号ニ規定セル利率ニ代ヘ其ノ領土内ノ法定利率ニ依ル旨ヲ規定スルコトヲ得

第十四条 各締約国ハ統一法第四十八条ノ規定ニ拘ハラス所持人カ被溯及者ニ対シ其ノ国ノ法律ノ認ムル手数料ヲ請求スルコトヲ得ヘキ旨ノ規定ヲ設クルノ權ヲ留保ス

手形金ノ支払ヲ為シタル者カ其ノ金額ヲ前者ニ対シ請求スル場合ニ付テモ統一法第四十九条ノ規定ニ拘ハラス前項ト同シ

第十五条 各締約国ハ其領域内ニ於テハ満期又ハ時効ノ場合ニ付テハ資金ヲ供給セサル振出人若ハ不正ニ利得シタル裏書人ニ対スル訴權ノ存在スルコトヲ定ムルノ自由ヲ有ス

同様ノ權能ハ時効ノ場合ニ於テ資金ヲ受領シ又ハ不正ニ利得シタル引受人ニ付テモ存在ス

第十六条 振出人カ満期前ニ資金ヲ供給スルノ義務ヲ有スルカ否、所持人カ此ノ資金ノ上ニ特別ノ權利ヲ有スルカ否ハ統一法ノ外ニ在ルモノトス手形カ振出サルルニ至リタル基本關係ニ關スル其ノ他ノ問題ニ付亦同シ

第十七条 裁判所ノ審理スヘキ手形上ノ權利ノ時効ノ中断又ハ停止ノ原因ハ各締約国ノ法制ノ定ムルトコロニ依ル

他ノ締約国ハ斯ル原因ヲ承認スルノ条件ヲ定ムルコトヲ得統一法第七十条第三項ニ規定スル時効期間ノ始期ヲ定ムル方

法トシテノ訴ノ効果ニ付亦同シ

第十八条 各締約国ハ引受又ハ支払ノ呈示其ノ他ノ為替手形ニ關スル行為ニ付テハ法定ノ休日ニ準スヘキ日ヲ定ムルコトヲ得

第十九条 各締約国ハ統一法第七十五条ニ規定スル證券ニ付テハ其ノ国ノ法律ニ於テ採用スヘキ名称ヲ定メ又ハ該證券カ指圖式ナルコトヲ明ナル表示アル限り特別ナル名称ヲ用ヒサルコトヲ得

第二十条 此ノ附属書ノ為替手形ニ關スル第一条乃至第十八条ノ規定ハ約束手形ニモ亦之ヲ適用ス

第二十一条 各締約国ハ本条約第一条ノ約束ヲ為替手形ニ關スル規定ノミニ制限シ其ノ領域内ニ於テハ統一法第二編約束手形ニ關スル規定ヲ設ケサルノ權ヲ留保ス此ノ場合ニ於テハ該留保ヲ利用スル締約国ハ単ニ為替手形ニ關シテノミ締約国ト看做ス

各締約国ハ亦約束手形ニ關スル特別法ヲ定ムルノ權利ヲ留保ス但其ノ特別法ハ統一法第二編ノ規定ニ全ク適合スルコトヲ要シ且統一法中ノ為替手形ノ規定ニシテ約束手形ニ關係アルモノハ同法第七十五条乃至第七十八条及此ノ附属書第十九条第二十條ニ依リ生スル變更ヲ除ク外其ノ儘之ヲ規定スルコトヲ要ス

第三章 為替手形及約束手形ニ關スル法律ノ牴觸ヲ規律スル條約

原案ノ條約案條項ハ(一)為替手形上ノ約束手形上ノ約束ノ効力ヲ印紙ニ關スル法規ノ遵由ト独立ナラシメ(二)為替手形及約束手形ニ關スル法律ノ牴觸ヲ規律スル規定ヲ定ムルコトヲ目的トスルモノナリシモ會議ニ於テ(一)ト(二)トヲ分離シ為替手形及約束手形ニ關スル法律ノ牴觸ヲ規律スル條約ト為替手形及約束手形ニ關スル印紙法ニ關スル條約トノ二箇ノ條約ト為シタルコトハ總論ニ於テ述ヘタルトコロノ如シ今法律ノ牴觸ニ關スル條項ノ討議ノ結果ヲ述フレハ左ノ如シ本章中第……條ト称スルハ原案ノ條文ヲ指シ新條ト称スルハ會議ニ於テ議決シタル右法律ノ牴觸ヲ規律スル條約ノ條文ヲ指スモノトス

第一条 別個ノ条約トナル（第四章参照）

第二条（新第一条）

原案通可決

第三条（新第二条）

帝国代表ハ訓令丙一ニ依リ本条ハ約束手形ニモ適用アルモノトスルヲ可トストノ提案ヲ為シ伊国代表モ亦第一項ニ付同一ノ提案ヲ為シタル結果第一項及第三項ノ「為替手形」ナル文字ヲ「為替手形及約束手形」ナル文字ニ修正シ第二項ニ付テハ「他ノ国ノ領域内ニ於テ為シタル約束」ヲ「他ノ国ノ領域内ニ於テ為シタル署名」ト修正シタリ

第四条（新第三条）

第一項ハ原案通

第二項ニ付テハ訓令丙一二基キ本項ハ約束手形ニモ適用スヘキモノナルコトヲ提案シ「為替手形」ヲ「為替手形及約束手形」ト修正シタリ

尚原案ニ対シテハ第三項トシテ次ノ規定ヲ追加スルコトナレリ

「各締約国ハ外国ニ於テ自国ノ国民ノ為シタル為替手形上及約束手形上ノ約束カ其ノ国ノ法律ノ定ムル形式ニ遵ヒタルモノナルトキハ其ノ国ニ於テ他ノ同国民ニ対シ有効ナルヘキコトヲ規定スルコトヲ得

第五条（新第四条）

本条ニ付テハ帝国代表ハ訓令丙一二依リ為替手形上又ハ約束手形上ノ約束ノ効力ハ署名者ノ意思カ證券上明白ナルトキハ其ノ意思ニ依リ然ラサル場合ニハ行為地法ニ依ルヘキモノトスル趣旨ニ改ムヘキコトヲ提案シ独逸国代表モ亦本条ニ付「為替手形ノ引受人又ハ約束手形ノ振出人ノ約束ノ効力ハ支払地ノ法律ニ依ルヘク保證人及参加引受人ノ約束ノ効力ハ被保證人及被参加人ノ約束ノ効力ニ付適用セラルヘキ法律ニ依リ其ノ他ノ手形債務者ノ署名ノ効力ハ署名カ為サレタ

リトセラルル地ノ法律スル地ナキトキハ實際署名ヲ為シタル地ノ法律ニ依ル」ヘキ旨ヲ提案シ而シテ約束ノ効力ハ当事者ノ意思ニ依リ意思明カナラサルトキハ履行地ノ法律ニ依ルヘキモノトスルヲ根本精神トスルモ手形法ノ特性ニ鑑ミ如上ノ提案ヲ為ス所以ナリト附言シタルトコロ會議ニ於テハ先ツ独逸案ニ付討議シタル結果第一項ハ為替手形ノ引受人及約束手形ノ振出人ノ約束ノ効力ノミニ限定シタル上支払地ノ法律ニ依ルコト、シ第二項ハ其ノ他ノ債務者ニ関スル規定トシ總テ行為地法ニ依ルコト、決定セラレ我提案ハ採用セラル、ニ至ラサリキ新第四条ノ規定ハ左ノ如シ

「為替手形ノ引受人又ハ約束手形ノ振出人ノ約束ノ効力ハ證券ノ支払ハルヘキ地ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム為替手形上又ハ約束手形上ノ其ノ他ノ債務者ノ署名ノ効力ハ署名ヲ為シタル地ノ属スル国ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム」

新条（新第五条）

本条ハ討議ノ結果新ニ設ケラレタル規定ナリ溯及權行使ノ期間ニ付テハ總テノ署名者ニ対シ唯一ノ法律ヲ適用スルコトカ實際上便宜ナリトセラレタルニ因ルモノトス

新第五条ノ全文左ノ如シ

溯及權行使ノ期間ハ證券ノ作成セラレタル地ノ法律ニ依リテ總テノ署名者ノ為ニ定メラルヘキモノトス

第六条（新第六条）

原案ノ如ク資金ニ対シ特別ノ權利ヲ有スルヤ否ヤ等ヲ支払地ノ法律ニ依リテ定ムヘキモノトスル主義ニ付テハ強キ反対說アリタル結果證券発行地ノ法律ニ依リテ決スヘキ旨修正セラレタリ規定ノ全文左ノ如シ

「手形所持人カ證券ノ発行ヲ為サシムルニ至リタル債權ヲ取得スルヤ否ハ證券発行地ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム」

第七条（新第七条）

原案通可決

第八条（新第八条）

原案通可決 但 *Etat (国)* ナル文字ヲ *Pays (国)* ナル文字ニ改メタリ
第九条 (新第九条)

「又所持人ノ破産ノ場合ニ於テ」ナル文句ヲ削除シタル外原案通可決
第十条 (新第十条)

原案通可決 但シ *Les Etats Contractants* ヲ *Chacune des Hautes Parties Contractantes* ナル文字ニ改メタリ

以上ノ外尚新条トシテ第十条乃至第二十条ヲ加ヘタリ是レ条約ノ効力、署名期間批准期間其他条約トシテ具備スルコトヲ要スル条項ニシテ直接抵触法規ニ關係ナキノミナラス其ノ要旨ハ既ニ総論ニ於テ摘示シタルトコロナルヲ以テ之ヲ省略ス

第四章 為替手形及約束手形ニ関スル印紙法条約

第一条 (新第一条)

原案タル条約要項第一条第二項ニ対シテハ帝国代表ハ訓令丙一ニ依リテ約束手形ニモ適用アルモノトスヘキ旨ノ提案ヲ為シタル結果「為替手形」ヲ「為替手形及約束手形」ト修正シタリ

又討議ノ結果「其ノ規定セル印紙税」ヲ「其ノ規定セル印紙税及課セラレタル罰金」ト修正シ以テ印紙不貼用ニ因ル罰金ノ不払ノ場合ニ付テモ本条ノ適用アラシムルコトセリ

右規定力独立ノ条約トナリタル結果条約ノ効力署名期間批准期間其ノ他条約トシテ具備スヘキ条項ヲ第二条乃至第十条トシテ規定シタルモ右ノ事項ノ要旨ハ総論ニ於テ摘示シタルトコロナルヲ以テ茲ニハ之ヲ省略ス

別記

甲

手形規則及小切手規則採択ノ様式ニ付テハ条約ノ形式ヲ以テスルトキハ常ニ批准ヲ要スルモノト為スベシ又提案ノ趣旨ガ右規則ヲ含ム法律案ヲ立法機關ニ付議スルコトニ関シ単純ナル申合ヲ為サントスルモノナルニ於テハ条約ノ形式ニ依ラズ決議又ハ勧告ノ様式ニ依ルコトト為スベシ

乙 手形規則案及小切手規則案ニ対シテハ左ノ通措置スベシ

一、為替手形、約束手形及小切手ニ付振出、裏書、引受、保證、参加其他署名ヲ要スル場合ニ我国内手形ニ付テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得ベキ旨ノ留保ヲ為スベシ

二、手形規則案第三条第三項ハ之ヲ削除スルヲ可トス

三、同第四条中「第三者ノ住所ニ於テ支払ハルベキモノト為スコトヲ得」トアルハ支払場所ノ記載並支払担当者ノ記載ノ双方ヲ含ム趣旨ナリヤヲ釈明シ若シ然ラズトセバ本条ヲ其趣旨ニ改ムルヲ可トス

四、同第十九条中「支払拒絶證書作成期間經過後ノ裏書ハ通常ノ債權譲渡ノ効力ノミヲ有ス」トアルハ被裏書人ハ裏書人ノ有スル權利ノミヲ取得スト謂フト同一ノ意義ナリヤヲ釈明シ若シ然ラズトセバ本条ヲ其趣旨ニ改ムルヲ可トス

五、同第二十一条第二項ニ規定スル引受要求ノ呈示ノ絶対ノ禁止ハ總テノ手形ニ之ヲ許サザルヲ可トス

六、同第二十一条第二項但書ニ付「他所払」(*domiciled*)ノ意義及他所払ノ為替手形ヲ例外ト為シタル理由ヲ釈明スベシ

七、同第二十六条ニ付支払担当者ノ法律上ノ地位ヲ明ニスル規定ヲ設クルヲ可トス (我商法第四百九十条参照)

八、同第二十六条ニ付引受人ガ支払地ニ於テ自ラ支払ノ責ニ任ジタルモノト看做サルル場合ニハ支払地ニ於ケル支払ノ場所ヲ記載シ得ベキモノトスルヲ可トス

九、同第二十六条第二項ニ付本項ノ場合ニモ支払担当者ヲ定メ得ルモノトスルヲ可トス

十、同第四十条第一項中「支払ヲ求ムルコトヲ得ベキ日」ノ意義殊ニ満期前ノ溯求ノ場合ヲ含ムモノナリヤヲ釈明スベシ

十一、同第四十条第一項ニ付外国貨幣ノ換算率ヲ裏書人ニ定メシムルコトヲ許シタル理由ヲ釈明シ首肯スベキ理由ナキニ於テハ本項中「又ハ裏書人ニ依リ」ハ之ヲ削除スルヲ可トス

十二、同第四十二条ニ付満期前ノ溯求ノ要件ハ第二号ノ支払人及第三号ノ振出人ノ状態ヲ同一ニ定ムルヲ可トス

十三、同第四十四条ニ付第一項ニ「四営業日」、第二項ニ「二日ノ期間」トアルハ何レモ「二営業日」ト改ムルヲ可トス

十四、同第四十四条ニ付振出人ガ宿所ヲ記載セザル場合又ハ之ヲ記載シタルモ読ミ難キ場合ニハ振出人ニ対シテ通知ヲ為サザルコトヲ得ル旨ノ規定ヲ加フルヲ可トス

十五、同第四十四条末項ニ付通知懈怠ニ因ル損害賠償額ガ為替手形ノ金額ヲ超ユルコトヲ得サルモノト為シタル理由ヲ釈明シ首肯スベキ理由ナキニ於テハ本項但書ハ之ヲ削除スルヲ可トス

十六、同第五十一条ニ付「反対ノ約定」ハ之ヲ記載シタル者ノ為ニノミ効力ヲ有スルモノナリヤヲ釈明スベシ

十七、同第五十三条ニ付一千九百十二年海牙決議為替手形及約束手形統一規則第五十三条第四項及第五項ヲ復活セシムルヲ可トス

参照 一千九百十二年海牙決議為替手形及約束手形統一規則

第五十三条第四項 不可抗力ガ満期日より三十日以上継続スルトキハ為替手形ノ呈示又ハ拒絕證書ノ作成ヲ要セズシテ溯求權ヲ行フコトヲ得

第五項 一覽払又ハ一覽後定期払ノ為替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ經過前ト雖モ所持人ガ其裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ為シタル日より經過ス

十八、同第五十四条ニ付「必要ノ場合ニ於テ引受又ハ支払ヲ為スベキ者」ハ支払地ニ住所又ハ營業所ヲ有スルモノニ限ルコトト為スヲ可トス

十九、同第五十七条第二項及第六十一条第二項ニ第四十九条トノ權衡上「受取ヲ證シタル計算書」ノ交付ヲ請求シ得ル旨ヲ加フルヲ可トス

二十、同第六十条第二項ハ被参加人及其後者ニ対スル溯求權ヲ失フモノト改ムルヲ可トス

二十一、同第六十六条ニ付謄本ノ作成ハ一通ニ限ルモノナリヤヲ釈明シ若シ數通ノ謄本ノ作成ヲ許ス趣旨ナルニ於テハ之ヲ一通ニ限ルヲ可トス

數通ノ謄本ノ作成ヲ認ムルコトナリタルトキハ謄本ニ付テモ第六十四条ノ如キ規定ヲ設クルヲ可トス

二十二、同第七十二条ニ付休日ハ法令ヲ以テ定ムルコトヲ要スルノ意味ナリヤ又ハ一般ノ休日ヲ意味スルヤヲ釈明シ若シ前者ノ意味ナリトセバ後者ノ如ク改ムルヲ可トス

二十三、同第七十六条第一項ニ付保證ニ関スル規定中「第三十一条甲」ヲモ準用スルヲ可トス

二十四、小切手規則案第十二条第三項ニ付手形規則案「第三十一条甲」ヲモ準用スルヲ可トス

二十五、同第十八条第八項ニ付但書ノ損害賠償額ガ小切手ノ金額ヲ超ユルコトヲ得ザルモノト為シタル理由ヲ釈明シ首肯スベキ理由ナキニ於テハ本項但書ハ之ヲ削除スルヲ可トス

二十六、同第十八条ノ次ニアル勧告ニ付本規則ヲ採択シタル國ガ計算小切手ノ使用ヲ留保セザル場合ニハ計算小切手ノ制度ヲ認ムルコトヲ得ザル趣旨ナリヤヲ釈明シ若シ然ラズトセバ該制度ヲ採用セントスル國ヲシテ其旨ノ留保ヲ為サシムベキコトヲ主張スベシ

二十七、同第二十三条中ニ手形規則案ノ不可抗力ニ関スル第五十三条ヲ準用スルヲ可トス
以上ノ中二、五、十一、十二、十三（前段）十五及二十一ニ付反対説多數ナルニ於テハ大勢ニ順應スルヲ妨ゲズ

丙 条約案ニ対シテハ左ノ通措置スベシ

- 一、手形条約案第一条第二項、第三条及第四条第二項ハ約束手形ニモ適用アルモノトスルヲ可トス
- 二、同第五条ヲ為替手形上又ハ約束手形上ノ約束ノ効力ハ署名者ノ意思ガ證券上明白ナルトキハ其意思ニ依リ然ラザル場合ニハ行為地法ニ依ルモノトスル趣旨ニ改ムルヲ可トス
- 三、小切手条約案第六条ニ小切手上ノ約束ノ効力ハ署名者ノ意思ガ證券上明白ナルトキハ其意思ニ依ルモノトスル趣旨ノ但書ヲ設クルヲ可トス

編 注 本報告書は、昭和五年七月四日付在パリ佐藤国際連盟帝國事務局長より幣原外務大臣宛公信機密連本公第三八

〇号によつて本件會議の報告書として送付されたものである。

六 為替手形、約束手形及び小切手に関する法律統一国際會議

2 「為替手形約束手形及小切手ニ関スル法律統一ノ

第二回国際會議報告書」